

# くすりの豆知識

—もっと知りたい! おくすりのこと!—

No.4

薬の保管方法は?

薬は光・温度・湿度の条件により変質しやすくなります。変質により、薬の効果は弱まるだけでなく、有害物質に変化することもあります。そこで薬を安全に服用・使用するために次の点に注意をしましょう。

●直射日光をさけ湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。

一般に薬は直射日光をさけ、湿気の少ない涼しい所に保管するのが適切です。高温・多湿の環境下では、薬が変質する可能性があります。温度の高くなる車の中や日のあたる窓の近く、湿気の多い風呂場の近くなどに置くことはさげましょう。

●缶などに乾燥剤と一緒にに入れて保管して下さい。

飲み薬は薬以外のものと区別して、気密性の高い缶やプラスチック容器に入れて保管しましょう。湿気をさけるため乾燥剤を入れておくとさらによいでしょう。

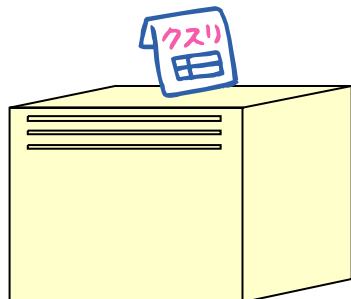
●お子さんの手の届かない所に保管して下さい。

薬は子供が間違えて飲んでしまわないように幼児・小児の手の届かない高い所などに保管しましょう。

×



○



## ●指示があればその通りに保管して下さい。

たとえば、「冷所に保管して下さい」と指示のある場合

- 水剤、坐剤、点眼剤、注射薬などの一部に、冷蔵庫保存の必要な薬があります。凍結しないように冷蔵庫の扉のポケットなどに保管しましょう。
- インスリン注射薬は、凍結をさけて冷蔵庫に保管して下さい。ただし、使いはじめたペン型インスリン注射薬は冷蔵庫に入れないで室温で保管して下さい。



※ 湿気をさける目的で全ての薬を冷蔵庫に保管すると、冷蔵庫内と室内で温度差があるため、冷蔵庫から出した時に結露して、かえって薬が湿気をおびてしまうことがあります。

## ●容器を移し替えないで下さい。

容器を移し替えると、薬の内容や使い方がわからなくなり誤用や事故につながります。薬の効果、飲み方、副作用などを確認しながら服用するために、薬局で渡される薬剤情報書（薬の説明書）・薬袋・市販の薬に付いている添付文書なども一緒に保管しましょう。

## ●薬の保管期間

薬の効果と品質が保証される有効期間や使用期限（開封前の状態で保管した場合）の書かれている薬は、期限を過ぎたら必ず処分しましょう。

2018/10/18